

授業科目	幼児理解と教育相談		授業形態	演習	単位数	2単位	
担当者	小川 友美						
ナンバリング	ESU2B31	開講時期	2年次前期	授業時間数	30時間	授業回数	15回
必修・選択	幼児:必修 保育士:選択必修		実務経験のある教員による授業科目			該当しない	
ディプロマ・ポリシーとの関連	(1)理論と技術を学び、専門職としての自覚および技術を持つ。						
	(2)専門性を持った職業人として社会で活躍でき、自己の向上と自己実現および生涯学習の足がかりを作ることができる。						○
カリキュラム・ポリシーとの関連	(1)基礎から応用へと発展するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する専門知識と技能を段階的に修得できる教育を実施する。						○
	(2)実習を通して理論と実践のつながりを理解するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する実践力を養う教育を実施する。						
	(3)学生と教員の対話を重視し、学生個人の特性や持ち味を生かした教育を実施する。						
授業の概要・方法	・教科書や配布資料、映像視聴を用いて、幼児教育（乳児教育を含む）に必要な「こころ」、「身体」、「行動」について学ぶ。また、グループディスカッションを通して、教育相談に必要な基礎知識（臨床心理学におけるカウンセリング理論と演習）を学習する。						
アクティブラーニングの実施	○		ICTを活用した授業の実施				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学生が、幼児（乳児を含む）理解についての知識や基礎的態度を身に付ける。 ・学生が、学校（幼稚園、こども園、保育所を含む）における教育相談の意義と理論を理解する。 ・学生が、「コミュニケーション能力」（4）、「対話する能力」を身に付ける。 						
授業計画	第1回	テーマ	幼児（乳児を含む）に関わる人に求められる倫理観				
		内容	QOL論、ICFの視点から幼児を担当するにあたって大切なことを理解する。				
		授業時間外学修	予習：教科書 P.1～「子どもとかわる人に求められること」を予習して授業に臨むこと。 復習：QOLとICFについて理解し、子どもを担当する職員にとって大切な事柄について理解する。				
	第2回	テーマ	人間のこころとからだの発達、人格形成について学習する				
		内容	「人間」について発達の視点から、こころ、からだ、人格形成について理解する。				
	第3回	授業時間外学修	予習：教科書 P.45～「パーソナリティ形成の視点から」を読んでおく。 復習：乳児期、幼児期の人格形成、Eriksonの心理・社会的発達理論について理解する。				
		テーマ	幼児（乳児を含む）の「こころ」とインフォームド・コンセントについて学習する				
	第4回	内容	インフォームド・コンセント/アセントについて理解する。				
		授業時間外学修	予習：教科書 p.15～「インフォームド・コンセント/アセントのあり方」を読んでおく。 復習：インフォームド・コンセントについて理解する。				
	第5回	テーマ	幼児（乳児を含む）の「こころ」について理解する				
		内容	ピアジェの発達理論を中心に、乳児期、幼児期の特徴について理解する。				
	第5回	授業時間外学修	予習：p.33～「こころの発達」を読んでおく。 復習：ピアジェの発達理論について理解する。				
		テーマ	乳児期・幼児期の「からだ」について理解する				
	内容	乳児期・幼児期のからだ（身長、体重、各臓器等）及び機能の発達について理解する					

	回		る。
	授業時間外 学修	予習： 教科書 p.25～「からだの発達」を読んでおく。 復習： 乳児期、幼児期のからだの発達について、講義内容と教科書を確認する。	
第 6 回	テーマ		乳児期・幼児期の「行動」について理解する
	内 容		乳児期・幼児期の行動の特徴、特に乳幼児期の言語、社会性について理解する。
	授業時間外 学修	予習： p.33～「こころの発達」を読んでおく。 復習： 授業内容と教科書を照合し、乳幼児期の行動の特徴を理解する。	
第 7 回	テーマ		障害児について理解する。
	内 容		定型発達との違いを理解し、「障害児」の概念、ノーマライゼーションの理念、知的障害について学習する。
	授業時間外 学修	予習： 配布資料を読んでおく。 復習： 配布資料を確認し、障害児の概念について理解する。	
第 8 回	テーマ		発達障害（自閉スペクトラム症等）について理解する。
	内 容		自閉スペクトラム症、AD/HD, LD の特性について理解する。
	授業時間外 学修	予習： 教科書 p.55～「発達障害とは」と配布資料を読んでおく。 復習： 教科書、配布資料を確認し、発達障害の特性について理解する。	
第 9 回	テーマ		特別支援教育について理解する。
	内 容		特別支援教育に必要な基礎知識について理解する。
	授業時間外 学修	予習： 教科書 p.61～「特別支援教育に必要な基礎知識」を読んでおく。 復習： 教科書、配布資料を確認し、特別支援教育の基礎知識を確認する。	
第 10 回	テーマ		自己理解（交流分析）について理解する
	内 容		対人を専門とする職員にとって、自己理解が重要なことを理解する。
	授業時間外 学修	予習： 教科書 p.158～「不安と恐怖」を読んでおく。 復習： エゴグラムについて理解し、自分の特性（持ち味）を理解する。	
第 11 回	テーマ		教育相談について理解する
	内 容		教育相談（児童、家族、教職員）の必要性と重要性を理解する
	授業時間外 学修	予習： 教科書 p.220～「不登校とカウンセリング」を読んでおく。 復習： 教職員にとって教育相談の必要性と大切さを確認する。	
第 12 回	テーマ		カウンセリングの理論（主にクライアント中心カウンセリング）について理解する
	内 容		クライアント中心カウンセリングの理論を習得する。
	授業時間外 学修	予習： 教科書 p.237～「子どもへのカウンセリング」 p.243～「家族へのカウンセ リング」を読んでおく。 復習： クライアント中心カウンセリングの理論を理解する。	
第 13 回	テーマ		カウンセリングの演習
	内 容		演習を通し、クライアント中心カウンセリングを身に付ける。
	授業時間外 学修	予習： 配布資料を予習して授業に臨むこと。 復習： クライアント中心カウンセリングを実践できるようになる。	
第 14 回	テーマ		教育相談（カウンセリング）の役割と効果
	内 容		演習を通して、教育相談の役割と効果を理解する。
	授業時間外 学修	予習： クライアント中心カウンセリングの理論と演習内容を確認しておく。 復習： 演習後の課題を明らかにし、解決できるようにしておく。	

	第 15 回	テーマ	不登校と教育相談について理解する。
		内 容	不登校児にとって教育相談の重要性を理解する。
		授業時間外 学修	予習： 教科書 p.220～「不登校とカウンセリング」を読んでおく。 復習： 「不登校」と「教育相談」の関連性を理解し、スクールカウンセリングの大切さを理解する。
	第 16 回	レポート	
教科書・テキスト	「こころ」「からだ」「行動」へのアプローチ 子どもを理解する（浅倉次男監修 へるす出版） また、授業中に適宜、資料を配布する。		
参考書・参考資料等	よくわかる臨床心理学（下山晴彦編 ミネルヴァ書房）		
成績評価の 方法・基準	レポート課題（3 回）により、専門的理解の程度（50%）、「コミュニケーション能力」（4）獲得の程度（35%）、授業参加度（15%）で評価する。		
課題に対する フィードバックの方法	レポート課題については、講評と解説を行う。		
授業時間外学修	予習（各授業回約 30 分）、復習（各授業回 30 分）として、授業計画で示された内容を実施する。レポート課題の際は、教科書や資料を見直し、内容を理解した上で関連事項を調べてまとめる（約 45 時間）。レポート課題の講評と解説を踏まえ、自己評価すると共に既習内容の理解を深める（約 2 時間）。		
備 考			
連絡先（質問等）	授業前後の時間に、教室等にて質問を受け付ける。		

授業科目	保育・教職実践演習（幼稚園）		授業形態	演習	単位数	2	単位
担当者	高桑秀郎、花田嘉雄、木村重子						
ナンバリング	ESP2A32	開講時期	2年次後期	授業時間数	30 時間	授業回数	15 回
必修・選択	幼児：必修 保育士：必修		実務経験のある教員による授業科目			該当する	
ディプロマ・ポリシーとの関連	(1)理論と技術を学び、専門職としての自覚および技術を持つ。						○
	(2)専門性を持った職業人として社会で活躍でき、自己の向上と自己実現および生涯学習の足がかりを作ることができる。						
カリキュラム・ポリシーとの関連	(1)基礎から応用へと発展するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する専門知識と技能を段階的に修得できる教育を実施する。						○
	(2)実習を通して理論と実践のつながりを理解するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する実践力を養う教育を実施する。						
	(3)学生と教員の対話を重視し、学生個人の特性や持ち味を生かした教育を実施する。						
授業の概要・方法	他者の指導案や実践記録を観て分析・考察したり、園の行事を企画したりすることにより、保育実践の進め方や留意点、幼児の捉え方等について学ぶ。また、これまでの実習の振り返りやグループディスカッション等を通して自分の考えを深める。						
アクティブラーニングの実施	○		ICTを活用した授業の実施				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 実践の特徴について理解することができる。 実践を分析する意義について理解することができる。 他者の実践を観てしっかり捉え、分析することができる。 実践の経験を再構成して、専門的知識・理解・技術へと高めることができる。 「学び続け、成長し続ける能力」(2)「実践の経験を再構築して、専門的知識・理解・技術へと高めることができる」を身につける。 						
授業計画	第1回	テーマ	保育・教職実践について（担当 木村重子）				
		内容	これまでの学習や実習をもとに自己課題を認識し、幼稚園の役割や教師として必要な力について考える。				
		授業時間外学修	予習： シラバスを熟読する。 復習： 自己課題を明確にし、これからの保育実践につないでいく。				
	第2回	テーマ	園行事を企画する①（担当 花田嘉雄）				
		内容	行事についてのポイントや保護者との連携についてのポイントを整理する。グループに分かれて園行事（遠足）の企画を考える。				
	第3回	授業時間外学修	予習： 幼保連携型認定こども園教育・保育要領P.11～12を熟読する。 復習： グループごとに企画した遠足についての留意点等をまとめておく。				
		テーマ	園行事を企画する②（担当 花田嘉雄）				
	第4回	内容	遠足の下見のポイントを整理し、実際にグループごとに下見をする。				
		授業時間外学修	予習： 下見する目的地への交通手段等についてグループごと打合せをしておく。 復習： 下見時に記録した画像を整理して提出する。				
	第5回	テーマ	園行事を企画する③（担当 花田嘉雄）				
		内容	下見を基に、園行事の企画を発表用ポスターにまとめる。				
	第6回	授業時間外学修	予習： 下見を基に、園行事の企画を発表用ポスターにまとめる。 復習： 発表用ポスターを完成させる。				
第7回		テーマ	責任実習を振り返る（担当 花田嘉雄）				

5 回	内 容	各自の責任実習の振り返りを基に、実践内容の近いメンバーに分かれて情報交換を行い、責任実習からの学びを深める。
	授業時間外 学修	予習： 各自の責任実習について振り返りをしておく。 復習： 本時の学びについてレポートにまとめ、提出する。
第 6 回	テーマ	園行事を企画する④（担当 花田嘉雄）
	内 容	グループごとに企画した遠足を発表し、講評を行う。
第 7 回	授業時間外 学修	予習：発表する内容をまとめておく。 復習：発表についてのレポートをまとめて提出する。
	テーマ	学級経営について。子どもたちとの信頼関係の構築の仕方（担当 高桑秀郎）
第 8 回	内 容	子どもが園生活を送り、発達していくために必須の事項について学ぶ。
	授業時間外 学修	予習：自分の実習記録を基に、子どもとの関係を振り返り、まとめておく。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
第 9 回	テーマ	保育案作成の基本（担当 高桑秀郎）
	内 容	長期、短期の指導計画作成の基本について学ぶ。
第 10 回	授業時間外 学修	予習：自分が今まで作成してきた日案を見直し、保育の意図について考えておく。 復習：授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。
	テーマ	保育者の育ちへの願いを保育活動に反映させる（担当 高桑秀郎）
第 11 回	内 容	映像資料を視聴して、保育者の願いがどのように活動に反映されているかを探る。
	授業時間外 学修	予習：これまで配布された資料、ノートについて重要な点をまとめておく。 復習：配布された日案を再確認し、保育者が何を求めた活動なのかを探しておく。
第 12 回	テーマ	保育案の再構成 保育者の願いを達成する構成にするには（担当 高桑秀郎）
	内 容	映像資料を視聴して、保育者の願いを達成する活動とそうでない活動とを見極め、保育活動全体の活動構成を再構築する。
第 13 回	授業時間外 学修	予習：これまで配布された資料、ノートについて重要な点をまとめて、共通したテーマは何か探しておく。 復習：配布された日案を再確認し、保育者が何を求めた活動なのかを探しておく。
	テーマ	保育活動についての考察、5回の内容のまとめ（担当 高桑秀郎）
第 14 回	内 容	前回の課題について、説明と解説
	授業時間外 学修	予習： 返却されたレポート内容とコメントを振り返っておく。 復習： 配布された資料を基に、保育活動計画で重要になる点をまとめておく。
第 15 回	テーマ	保育実践における導入について（担当 木村重子）
	内 容	導入のねらいや方法、教材研究のあり方について学ぶ。
第 16 回	授業時間外 学修	予習： これまでの実習において自分の実践してきた導入や教材研究を振り返り、課題を整理する。 復習： 導入で提示する教材や、導入を実践する際の留意点をまとめ、自分なりの導入の仕方を考える。
	テーマ	保育者の連携について（担当 木村重子）
第 17 回	内 容	保育者の連携のあり方を学ぶ。
	授業時間外 学修	予習： これまでの実習から保育者の連携活動を振り返る。 復習： 授業内容の見直し、要点や疑問点をまとめる。
第 18 回	テーマ	家庭との連携について

	14 回	内 容	家庭との連携の意義や保育者理解、連携の方法等について考える。
		授業時間外 学修	予習： これまでの授業（例：保育原理「子育て支援」等）から、家庭との連携にかかわる方法等を整理する。 復習： 授業内容の見直し、要点や疑問点をまとめる。
	第 15 回	テーマ	保育実践の振り返り（担当 木村重子）
		内 容	実習ごとに保育実践を振り返り、自己評価をする。（実習ノートp34）
		授業時間外 学修	予習： 各実習での日誌や計画案等、実習ノートの記録を読む。 復習： 実習ごとに振り返り、自己評価したことを実習報告会に活かす。
	第 16 回		単位認定点に達しない場合、該当者に補講を行う。
教科書・テキスト	なし。		
参考書・参考資料等	<p>専門家として教師を育てる（佐藤 学 岩波書店）</p> <p>指導計画法（小田豊・神永美津子 北大路書房）</p> <p>幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成 29 年 3 月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省）</p>		
成績評価の 方法・基準	<p>授業中の演習とレポートにより、保育実践の特徴や分析についての理解の程度（50%）、「学び続け、成長し続ける能力」（2）獲得の程度（35%）、授業参加度（15%）で評価する。</p> <p>高桑、花田、木村が持ち分の授業でそれぞれ評価し、最終的に合算して算出する。</p>		
課題に対する フィードバックの方法	授業後に提出された演習ペーパー等については、コメントを入れ返却し、次回の授業において解説する。		
授業時間外学修	予習（各授業回約 30 分）、復習（各授業回約 30 分）として、授業計画で示された内容を実施する。各授業ごとの演習やレポートを見直し、既習内容を確認するとともに次回の授業内容との関わりを理解する。（約 60 時間）		
備 考	-		
連絡先（質問等）	<p>オフィスアワー</p> <p>高桑：水曜日 12 時 25 分～12 時 50 分</p> <p>花田：水曜日 12 時 25 分～12 時 50 分</p> <p>木村：水曜日 12 時 25 分～12 時 50 分</p> <p>その他、授業前後に、教室にて質問を受け付ける。</p>		

授業科目	幼児と音楽 A (器楽)		授業形態	演習	単位数	1 単位
担当者	白崎直季、佐々木寿子、若狭智子、佐藤慈成					
ナンバリング	ESU1B33	開講時期	1 年次前期	授業時間数	30 時間	授業回数 15 回
必修・選択	幼児:必修 保育士:選択必修 主事任用:		実務経験のある教員による授業科目			該当しない
ディプロマ・ポリシーとの関連	(1)理論と技術を学び、専門職としての自覚および技術を持つ。					○
	(2)専門性を持った職業人として社会で活躍でき、自己の向上と自己実現および生涯学習の足がかりを作ることができる。					
カリキュラム・ポリシーとの関連	(1)基礎から応用へと発展するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する専門知識と技能を段階的に修得できる教育を実施する。					○
	(2)実習を通して理論と実践のつながりを理解するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する実践力を養う教育を実施する。					
	(3)学生と教員の対話を重視し、学生個人の特性や持ち味を生かした教育を実施する。					
授業の概要・方法	この授業の目的は、音楽の基本的な知識やピアノの演奏技術の基礎をそれぞれの進度に応じたグループレッスンで学ぶ。また、保育者に必要な音楽表現力を発表などを通して身に付ける。					
アクティブラーニングの実施	-		ICT を活用した授業の実施	-		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な音楽理論を理解し、ピアノの演奏に必要な知識を身に付ける。 ・童謡、幼児の歌などの簡易伴奏を弾くことができる。 ・コードネームを理解し、簡単な伴奏付けができる ・「自分で考え、実践できる能力」 (1) 「現状をしっかりとらえることができる」を身につける。 					
授業計画	第 1 回	テーマ	イントロダクション			
		内容	授業の概要について理解し、楽器に触れる楽しさを味わう。			
		授業時間外学修	予習： シラバスを熟読する。 復習： 手遊びや、それぞれに与えられた課題曲を練習する。			
	第 2 回	テーマ	鍵盤楽器の基礎的な学習 (1) 音名について			
		内容	音名と、鍵盤の位置関係について学び、課題曲を実践する。			
	第 3 回	授業時間外学修	予習： 課題曲の練習をする。 復習： 手遊び、それぞれに指導を受けた課題曲を練習する。			
		テーマ	鍵盤楽器の基礎的な学習 (2) 読譜について			
	第 4 回	内容	テキストや配布資料を用いて、読譜についての知識を身につける。			
		授業時間外学修	予習： 課題曲の練習をする。 復習： 手遊び、それぞれに指導を受けた課題曲を練習する。			
	第 5 回	テーマ	鍵盤楽器の基礎的な学習 (3) リズムと拍子①			
		内容	テキストや配布資料を用い、基本的な音符の種類と休符、拍子について学ぶ。			
	第 6 回	授業時間外学修	予習： 課題曲の練習をする。 復習： 手遊び、それぞれに指導を受けた課題曲を練習する。			
		テーマ	鍵盤楽器の基礎的な学習 (4) リズムと拍子②			
	第 7 回	内容	リズム譜を読み、簡単なリズム打ちを実践する。			
		授業時間外学修	予習： 課題曲の練習をする。 復習： リズム打ち、課題曲の練習をする。			
	第 8 回	テーマ	鍵盤楽器の基礎的な学習 (5) コード進行①			
		内容	基本的なコード進行について学美、実践する。			

回	授業時間外 学修	予習： 課題曲の練習をする。 復習： コード進行、それぞれに指導を受けた課題曲を練習する。
第 7 回	テーマ	鍵盤楽器の基礎的な学習（6）コード進行②
	内 容	セブンス・コードについて学び、実践する。
授業時間外 学修	予習： 課題曲の練習をする。 復習： セブンス・コード、それぞれに指導を受けた課題曲を練習し、コードの種類についてまとめる。	
第 8 回	テーマ	鍵盤楽器の基礎的な学習（7）コード進行を使った伴奏付け
	内 容	コード進行を用い、伴奏の付けかたについて学び、実践する。
授業時間外 学修	予習： 課題曲の練習をする。 復習： コード進行、課題曲の練習をする。	
第 9 回	テーマ	各自の進度に応じた学習（1）こどもの歌
	内 容	グループレッスンにおいて、それぞれ子どもの歌についての課題を実践する。
授業時間外 学修	予習： 手遊びの資料を収集する。こどもの歌についての課題曲を準備する。 復習： 学修した手遊びをノートにまとめ、いつでもできるように練習をする。	
第 10 回	テーマ	各自の進度に応じた学習（2）季節の歌
	内 容	グループレッスンにおいて、それぞれ季節の歌についての課題を実践する。
授業時間外 学修	予習： 季節の歌についての課題曲を準備する。 復習： それぞれに指導を受けた課題曲を練習する。	
第 11 回	テーマ	各自の進度に応じた学習（3）弾き歌い①
	内 容	グループレッスンにおいて、それぞれ弾き歌いについての課題を実践する。
授業時間外 学修	予習： 弾き歌いについての課題曲を準備する。 復習： それぞれに指導を受けた課題曲を練習する。	
第 12 回	テーマ	各自の進度に応じた学習（4）弾き歌い②ピアノ伴奏での弾き歌い
	内 容	グループレッスンにおいて、それぞれ弾き歌いについての課題を実践する。
授業時間外 学修	予習： 弾き歌いについての課題曲を準備する。 復習： それぞれに指導を受けた課題曲を練習する。	
第 13 回	テーマ	各自の進度に応じた学習（5）実技試験に向けての実践①
	内 容	グループレッスンにおいて、それぞれの課題曲の習得を目指し、課題に取り組む。
授業時間外 学修	予習： 課題曲の準備をする。 復習： それぞれに指導を受けた課題曲を練習する。	
第 14 回	テーマ	各自の進度に応じた学習（6）実技試験に向けての実践②
	内 容	グループレッスンにおいて、それぞれの課題曲を習得する。
授業時間外 学修	予習： 課題曲の練習をする。 復習： それぞれに指導を受けた課題曲を練習する。	
第 15 回	テーマ	各自の進度に応じた学習（7）実技試験に向けての実践③
	内 容	グループレッスンにおいて、それぞれ習得した課題曲をグループ内で発表する。
授業時間外 学修	予習： 課題曲の練習をする。 復習： それぞれに指導を受けた課題曲を練習する。	
第 16 回		実技試験
教科書・テキスト	(教) 保育のピアノ伴奏 12 か月 (西東社)	

	(教) こどもの歌ベストテン (ドレミ出版)
参考書・参考資料等	授業時に資料を適宜配布する。
成績評価の方法・基準	実技試験と授業後に提出するレポート等により、音楽の基礎的な知識、演奏技術の獲得の程度 (70%)、「自分で考え、実践できる能力」(1) 獲得の程度 (20%)、授業参加度 (10%) で評価する。
課題に対するフィードバックの方法	実技試験について、採点后講評を行う。
授業時間外学修	予習 (各授業回約 30 分)、復習 (各授業回約 30 分) として、授業計画で示された内容を実施する。
備考	必要に応じて、授業予定を変更する場合がある。
連絡先 (質問等)	オフィスアワー 火曜日 12:30~12:55 その他、授業前後、アポイントメントにより質問を受け付ける。

授業科目	幼児と音楽B（器楽）		授業形態	演習	単位数	1	単位
担当者	白崎直季、佐々木寿子、若狭智子、佐藤慈成						
ナンバリング	ESU1E34	開講時期	1年次後期	授業時間数	30 時間	授業回数	15 回
必修・選択	幼児：選択必修 保育士：選択必修		実務経験のある教員による授業科目			該当しない	
ディプロマ・ポリシーとの関連	(1)理論と技術を学び、専門職としての自覚および技術を持つ。						○
	(2)専門性を持った職業人として社会で活躍でき、自己の向上と自己実現および生涯学習の足がかりを作ることができる。						
カリキュラム・ポリシーとの関連	(1)基礎から応用へと発展するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する専門知識と技能を段階的に修得できる教育を実施する。						○
	(2)実習を通して理論と実践のつながりを理解するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する実践力を養う教育を実施する。						
	(3)学生と教員の対話を重視し、学生個人の特性や持ち味を生かした教育を実施する。						
授業の概要・方法	この授業の目的は、豊かな音楽表現のための知識やピアノ演奏技術の向上、音楽表現活動に関連した教材研究をそれぞれの進度に応じたグループレッスンで学ぶ。また、グループワークや発表を通して豊かな表現活動を幼児の前で実践するための力を養う。						
アクティブラーニングの実施	○		ICTを活用した授業の実施				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・コード進行を理解し応用力を身に付け、簡易伴奏を弾くことができる。 ・童謡、幼児の歌などをピアノの弾き歌いの技術を向上させる。 ・人前で弾く経験を重ねることにより、保育現場での実践につなげる力を養う。 ・「自分で考え、実践できる能力」(2)「実践について理解したり、分析したりすることができる」を身につける。 						
授業計画	第1回	テーマ	イントロダクション				
		内容	授業の概要について理解し、自分自身の課題設定を行う。				
		授業時間外学修	予習： シラバスを熟読する。 復習： 手遊びや、それぞれに与えられた課題曲を練習する。				
	第2回	テーマ	教育実習に向けての課題研究（1）手遊び				
		内容	グループワークを通して、様々な種類の手遊びを教え合い、レパトリーを増やしていく。				
	第2回	授業時間外学修	予習： 課題曲の練習をする。 復習： 手遊び、それぞれに指導を受けた課題曲を練習する。				
		テーマ	教育実習に向けての課題研究（2）弾き歌い				
	第3回	内容	課題発表会に向けての弾き歌いの実践をする。				
		授業時間外学修	予習： 課題曲の練習をする。 復習： それぞれに指導を受けた課題曲を練習する。				
	第4回	テーマ	課題発表会				
		内容	課題研究で準備した内容を発表し、振り返りをする。				
	第4回	授業時間外学修	予習： 課題曲の練習をする。 復習： 発表内容の振り返りをまとめる。				
		テーマ	弾き歌い（1）春の歌				
	第5回	内容	春の季節の課題曲を設定し、実践する。				

	回	授業時間外 学修	予習： 課題曲の練習をする。 復習： それぞれに指導を受けた課題曲の練習をする。
	第 6 回	テーマ	弾き歌い（２）夏の歌
内容		夏の季節の課題曲を設定し、実践する。	
	回	授業時間外 学修	予習： 課題曲の練習をする。 復習： それぞれに指導を受けた課題曲を練習する。
	第 7 回	テーマ	弾き歌い（３）秋の歌
内容		秋の季節の課題曲を設定し、実践する。	
	回	授業時間外 学修	予習： 課題曲の練習をする。 復習： それぞれに指導を受けた課題曲を練習する。
	第 8 回	テーマ	弾き歌い（４）冬の歌
内容		冬の季節の課題曲を設定し、実践する。	
	回	授業時間外 学修	予習： 課題曲の練習をする。 復習： それぞれに指導を受けた課題曲を練習する。
	第 9 回	テーマ	伴奏法について（１）左手で伴奏するパターン
内容		グループレッスンにおいて、それぞれ左手での伴奏法の課題を実践する。	
	回	授業時間外 学修	予習： 課題曲の練習をする。 復習： それぞれに指導を受けた課題曲を練習する。
	第 10 回	テーマ	伴奏法について（２）両手で伴奏するパターン
内容		グループレッスンにおいて、それぞれ両手で弾く伴奏法の課題を実践する。	
	回	授業時間外 学修	予習： 課題曲の練習をする。 復習： それぞれに指導を受けた課題曲を練習する。
	第 11 回	テーマ	各自の進度に応じた学習（１）実技試験に向けての実践①
内容		グループレッスンにおいて、それぞれの課題曲の習得を目指し、課題に取り組む。	
	回	授業時間外 学修	予習： 課題曲の準備をする。 復習： それぞれに指導を受けた課題曲を練習する。
	第 12 回	テーマ	各自の進度に応じた学習（２）実技試験に向けての実践②
内容		グループレッスンにおいて、それぞれの課題曲の習得を目指し、課題に取り組む。	
	回	授業時間外 学修	予習： 課題曲の練習をする。 復習： それぞれに指導を受けた課題曲を練習する。
	第 13 回	テーマ	各自の進度に応じた学習（３）実技試験に向けての実践③
内容		グループレッスンにおいて、それぞれの課題曲の習得を目指し、課題に取り組む。	
	回	授業時間外 学修	予習： 課題曲の練習をする。 復習： それぞれに指導を受けた課題曲を練習する。
	第 14 回	テーマ	各自の進度に応じた学習（４）実技試験に向けての実践④
内容		グループレッスンにおいて、それぞれの課題曲を習得する。	
	回	授業時間外 学修	予習： 課題曲の練習をする。 復習： それぞれに指導を受けた課題曲を練習する。
	第 15 回	テーマ	各自の進度に応じた学習（５）実技試験に向けての実践⑤
内容		グループレッスンにおいて、それぞれ習得した課題曲をグループ内で発表する。	
	回	授業時間外	予習： 課題曲の練習をする。

	学修	復習： それぞれに指導を受けた課題曲を練習する。
	第 16 回	実技試験
教科書・テキスト	(教) 保育のピアノ伴奏 12 か月 (西東社) (教) こどもの歌ベストテン (ドレミ出版)	
参考書・参考資料等	授業時に資料を適宜配布する。	
成績評価の方法・基準	実技試験と授業後に提出するレポート等により、音楽の基礎的な知識、演奏技術の獲得の程度 (70%)、「自分で考え、実践できる能力」(2) 獲得の程度 (20%)、授業参加度 (10%) で評価する。	
課題に対するフィードバックの方法	実技試験について、採点后講評を行う。	
授業時間外学修	予習 (各授業回約 30 分)、復習 (各授業回約 30 分) として、授業計画で示された内容を実施する。	
備考	必要に応じて、授業予定を変更する場合がある。	
連絡先 (質問等)	オフィスアワー 火曜日 12:30~12:55 その他、授業前後、アポイントメントにより質問を受け付ける。	

授業科目	幼児と造形A		授業形態	演習	単位数	1単位	
担当者	城山萌々						
ナンバリング	ESU1E35	開講時期	1年次前期	授業時間数	30時間	授業回数	15回
必修・選択	幼児:必修 保育士:必修		実務経験のある教員による授業科目			該当しない	
ディプロマ・ポリシーとの関連	(1)理論と技術を学び、専門職としての自覚および技術を持つ。						○
	(2)専門性を持った職業人として社会で活躍でき、自己の向上と自己実現および生涯学習の足がかりを作ることができる。						
カリキュラム・ポリシーとの関連	(1)基礎から応用へと発展するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する専門知識と技能を段階的に修得できる教育を実施する。						○
	(2)実習を通して理論と実践のつながりを理解するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する実践力を養う教育を実施する。						
	(3)学生と教員の対話を重視し、学生個人の特性や持ち味を生かした教育を実施する。						
授業の概要・方法	<ul style="list-style-type: none"> 造形表現は上手い、下手といった見方だけではないことを理解するために、まずは手を動かす喜びを感じることでできる題材を扱う。 素材と触れ合いながらその特徴を活かした扱い方を身につけるとともに、道具の扱い方を学ぶ。 表現媒体としてのデジタルカメラの利用やタブレット/スマートフォン等のアプリケーションの利用について実践を通して理解を深める。 ものづくりを通して他者とコミュニケーションをとる楽しさを感じることができるよう、制作のふり返りや作品発表(プレゼンテーション)を行う。 						
アクティブラーニングの実施	○		ICTを活用した授業の実施	○			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 様々な造形活動を実践し、造形の喜びや楽しさを感じる 幼児の造形活動を支えるにあたって、基礎的な理論や知識、技術を身につける 作品発表と鑑賞を通して、伝え合う力と表現を受容する姿勢を学ぶ 「コミュニケーション能力」(3)「伝え合う手段を見つけることができる」を身につける。 						
授業計画	第1回	テーマ	オリエンテーション 子どもの発達と造形表現				
		内容	授業の目標を明確にする。子どもの発達と造形表現について概観した上で、造形活動を通じたコミュニケーションを体験する。				
		授業時間外学修	予習：シラバスを読む 復習：スケッチブックを制作する。				
	第2回	テーマ	技法あそび① デカルコマニー・フィンガーペインティング				
		内容	身体感覚や五感、特に触覚と造形活動の関係について考える。(教科書 p.16~18、p.44)				
	第3回	授業時間外学修	予習：教科書 p.16~18を読む 復習：スケッチブックを制作する				
		テーマ	技法あそび② マーブリング				
	第4回	内容	偶然性から生まれるイメージと表現の広がりを体験する。技法あそびの目的やねらいを考える。				
		授業時間外学修	予習：教科書 p.31を読む 復習：スケッチブックを制作する				
	第4回	テーマ	技法あそび③ 染め紙				
		内容	染め紙あそびを通して混色や配色の感覚を養う。				

	回	授業時間外 学修	予習：教科書 p. 36 を読む 復習：スケッチブックを制作する
第5回	テーマ		色彩の世界 光の混色・絵の具の混色の違いと色の3要素 配色の基礎
	内容		色の種類や色相環について理解する。オリジナル色相環を制作する。色彩の効果や特性、対比について学ぶ。
	回	授業時間外 学修	予習：教科書 p. 71 を読む 復習：スケッチブックを制作する
第6回	テーマ		技法あそび④ フロッタージュ
	内容		フロッタージュクイズやフロッタージュ探検を行う。感性と環境のかかわりについて考える。(教科書 p. 20～21)
	回	授業時間外 学修	予習：教科書 p. 20～21 を読む 復習：スケッチブックを制作する
第7回	テーマ		技法あそび⑤ コラージュ制作1
	内容		これまでに作ったものと自ら撮影した写真を合わせてコラージュ作品を作る。
	回	授業時間外 学修	予習：スマートフォン等から使用する写真を選んで印刷しておく 復習：スケッチブックを制作する
第8回	テーマ		技法あそび⑤ コラージュ制作2
	内容		これまでに作ったものと自ら撮影した写真を合わせてコラージュ作品を作る。
	回	授業時間外 学修	予習：これまでに作ったものの特徴や質感を味わいながら整理する 復習：スケッチブックを制作する
第9回	テーマ		造形と映像表現① コマ撮りアニメーション制作
	内容		第7・8回で制作したコラージュをスマートフォンで撮影する。短編アニメーション等を参照しながら、動画撮影のイメージを膨らませる。
	回	授業時間外 学修	予習：撮影場所を考える 復習：撮影した写真を整理する
第10回	テーマ		造形と映像表現② コマ撮りアニメーション制作
	内容		撮影した写真を編集し、アニメーション動画を制作する。完成した動画はクラウドサービス等を利用して共有する。
	回	授業時間外 学修	予習：アニメーションの流れを考える 復習：共有した動画を観る
第11回	テーマ		造形と映像表現③ コマ撮りアニメーション上映会
	内容		制作した動画のプレゼンテーションをする。互いの制作物を鑑賞し、感想をまとめる。
	回	授業時間外 学修	予習：プレゼンテーションの準備をする 復習：感想と振り返りをまとめる
第12回	テーマ		郷土玩具と造形① 張り子の人形づくり
	内容		張り子の作り方に触れ、人形づくりを行う。風船を土台として新聞紙を糊で張り込む。
	回	授業時間外 学修	予習：山形張り子について調べる 復習：スケッチブックを制作する
第	テーマ		郷土玩具と造形② 張り子の人形づくり

	13 回	内 容	土台から張子を剥がし、着色していく。絵具を塗り重ねることで質感を活かした着彩をする。
		授業時間外 学修	予習：人形のデザインを考える。(テーマ、色彩) 復習：スケッチブックを制作する
	第 14 回	テーマ	郷土玩具と造形③ 張り子の人形づくり
		内 容	張り子の人形をテーマごとに集めて展示方法を考える。
	授業時間外 学修	予習	教科書 p. 161～165 を読み、様々な作品展示方法を調べる。
		復習	スケッチブックを制作する
	第 15 回	テーマ	制作活動のふり返りと作品発表
		内 容	これまでの制作活動を振り返り、保育者の役割と創造性を育む援助(教科書p. 88～91)について考える。スケッチブックをまとめ、提出する。
	授業時間外 学修	予習	制作したスケッチブックを見直す
復習	保育者の役割と創造性を育む援助についてまとめる		
教科書・テキスト	保育をひらく造形表現(槇英子著 萌文書林)		
参考書・参考資料等	<p>子どもの絵の見方、育て方(鳥居照美著 大月書店)</p> <p>子どもの発達と描画 保育・障害児教育の現場から(板井理著 かもがわ出版)</p> <p>驚くべき学びの世界 レッジョ・エミリアの幼児教育(佐藤学監修 ワタリウム美術館編 東京カレンダー株式会社)</p> <p>その他授業中に適宜資料を配布する。</p>		
成績評価の方法・基準	提出作品と振りかえりレポートによる表現の豊かさや工夫の程度(40%)、基礎的な理論や知識、技術の獲得の程度(35%)、「コミュニケーション能力」(3)の獲得の程度(10%)、出席状況、授業参加度(15%)で評価する。		
課題に対するフィードバックの方法	制作した作品や発表について、授業内で講評を行う。		
授業時間外学修	<p>作品の提出に向け、制作する。(約5時間)</p> <p>発表にむけてシミュレーションを行う。(約4時間)</p> <p>上記を除いた予習(各授業回約15分)、復習(各授業回約15分)、として、授業計画で示された内容を実施する。(約12時間)</p>		
備 考	必要に応じて、授業内容を変更する場合がある。		
連絡先(質問等)	<p>オフィスアワー 水曜日 12時25分～12時50分</p> <p>※Eメール・テキストチャットによる質問受付：随時 (担当教員のEメール・アドレスは授業初回に提示する)</p> <p>その他、授業前後に、教室にて質問を受け付ける。</p>		

授業科目	幼児と造形 B		授業形態	演習	単位数	1 単位	
担当者	花田嘉雄						
ナンバリング	ESU2E36	開講時期	2 年次後期	授業時間数	30 時間	授業回数	15 回
必修・選択	幼児:選択必修 保育士:選択必修		実務経験のある教員による授業科目			該当しない	
ディプロマ・ポリシーとの関連	(1)理論と技術を学び、専門職としての自覚および技術を持つ。						
	(2)専門性を持った職業人として社会で活躍でき、自己の向上と自己実現および生涯学習の足がかりを作ることができる。						○
カリキュラム・ポリシーとの関連	(1)基礎から応用へと発展するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する専門知識と技能を段階的に修得できる教育を実施する。						○
	(2)実習を通して理論と実践のつながりを理解するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する実践力を養う教育を実施する。						
	(3)学生と教員の対話を重視し、学生個人の特性や持ち味を生かした教育を実施する。						
授業の概要・方法	紙でお弁当づくり、壁面装飾をはじめ、制作活動が主になる。それらの紙を中心とした身近な素材による作品づくりの経験を通して、保育者としての工作技術を身に着けると同時に、一工夫することの楽しさを学ぶ。また、作品発表（プレゼンテーション）や共同制作（グループワーク）を通して自分の考えを伝えると共に、他者の表現や考えを受け入れたり参考にしたりする。						
アクティブラーニングの実施	○		ICT を活用した授業の実施				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な素材を使用した作品制作等を通して、造形表現には様々な可能性があることを学ぶ。 ・共同制作（グループワーク）を通して、チームワークの大切さを理解する。 ・作品発表（プレゼンテーション）、振り返りを通して、「フィードバック能力」(1)「自分の実践について検証し、課題を見つけることができる」能力を身につける。 						
授業計画	第 1 回	テーマ	オリエンテーション・鉛筆グラデーション				
		内容	授業の流れを把握する。一本の鉛筆から様々な明暗の調子を表現することができることに加え、技法や発想を変えることで更に表現の世界が広がることを学ぶ。				
		授業時間外学修	予習：シラバスを読んでおく。 復習：授業内容を見直し、表現について考える。				
	第 2 回	テーマ	紙を使った制作①				
		内容	紙でお弁当づくり①画用紙を使ってお弁当の箱をデザインする。				
	授業時間外学修	予習：お弁当箱のデザインを考えておく。 復習：箱作りを完成させる。					
		第 3 回	テーマ	紙を使った制作②			
	内容	紙でお弁当づくり②箱に合わせて蓋をつくり、絵の具や折り紙、色画用紙などを使って表面を装飾する。					
		授業時間外学修	予習：表面の装飾を考えておく。 復習：表面の装飾を完成させる。				
	第 4 回	テーマ	紙を使った制作③				
		内容	紙でお弁当づくり③様々な紙類や糸など身近な素材を使ってお弁当の中身をつくることにより、素材の可能性を広げる。				
		授業時間外学修	予習：お弁当の中身（具材など）について考えておく。 復習：お弁当を完成させる。				
第 5 回	テーマ	紙を使った制作④					

5 回	内 容	発表前に補修や最後の工夫を加える。作品発表をする。
	授業時間外 学修	予習：工夫したポイントを整理しておく。 復習：作品発表についてのレポートを書いて提出する。
第 6 回	テーマ	幼児と土粘土遊び①
	内 容	附属幼稚園の幼児と土粘土遊びをする。(準備～実践)
第 7 回	授業時間外 学修	予習：幼児の粘土遊びやかかわり方についてシミュレーションしてくる。 復習：第6回、第7回は集中で行うため、第7回に記載。
	テーマ	幼児と土粘土遊び②
第 8 回	内 容	附属幼稚園の幼児と土粘土遊びをする。(実践～片付け)
	授業時間外 学修	予習：第6回、第7回は集中で行うため、第6回に記載。 復習：土粘土遊びについてレポートにまとめて提出する。
第 9 回	テーマ	季節の制作①
	内 容	11月～12月の季節に合った制作物を考案する。
第 10 回	授業時間外 学修	予習：11月～12月の季節に合った造形活動について考えておく。 復習：次回の制作に向けて準備物をまとめる。
	テーマ	季節の制作②
第 11 回	内 容	第8回で考案した制作物を完成させ、展示する。
	授業時間外 学修	予習：どのように展示したら効果的かを考えておく。 復習：簡易レポートをまとめて提出する。
第 12 回	テーマ	壁面装飾① (グループワーク)
	内 容	保育所や幼稚園における装飾環境について研究する。4～5名グループに分かれ、それぞれ季節や誕生日についてのテーマを決め、壁面装飾のアイデアやどんな工夫ができるか話し合う。
第 13 回	授業時間外 学修	予習：「保育をひらく造形表現」P.155～164に目を通しておく。 復習：壁面装飾のアイデアをまとめる。
	テーマ	壁面装飾② (グループワーク)
第 14 回	内 容	身近な素材でどんなことができるか試行錯誤しながら、作業分担をし、協力して壁面装飾を進める。
	授業時間外 学修	予習：「保育をひらく造形表現」P.38に目を通しておく。 復習：グループで必要な装飾の材料をまとめておく。
第 15 回	テーマ	壁面装飾③ (グループワーク)
	内 容	グループで協力して壁面装飾を完成させる。(グループワーク)
第 16 回	授業時間外 学修	予習：グループごとに壁面装飾を進めておく。 復習：壁面装飾を完成させる。
	テーマ	幼児と造形遊び①
第 17 回	内 容	雪を活用した遊びを考え、その遊びに向けた準備物を作成する。
	授業時間外 学修	予習：様々な幼稚園、保育園のHPや書籍からどんな活動ができるか調べておく。 復習：次回の造形活動に向けて準備物を完成させる。
第 18 回	テーマ	幼児と造形遊び②
	内 容	第13回で考案、準備した雪遊びを実践する。
第 19 回	授業時間外	予習：活動に必要な準備をして来る。

	学修	復習：簡易レポートをまとめて提出する。	
	第15回	テーマ	壁面装飾④（プレゼンテーション）・まとめ
	内 容	グループごとに壁面装飾の発表をすることにより、自分たちの考えを伝えるとともに、他者の良さを認められるようにする。また、紙のお弁当課題を並べて展示し、アイデアの共有を図りながら授業を振り返る。（グループワーク、プレゼンテーション）	
	授業時間外学修	壁面装飾について表現したいことや工夫した点など、発表内容をまとめておく。各グループの発表をレポートにまとめて提出する。	
教科書・テキスト	保育をひらく造形表現（槇英子著 萌文書林）		
参考書・参考資料等	子どもの絵の見方、育て方（鳥居昭美著 大月書店） 子どもの発達と描画 保育・障害児教育の現場から（板井理著 かもがわ出版） また、授業中に適宜資料を配布		
成績評価の方法・基準	提出作品・レポートによる専門技能・アイデア・工夫の程度（65%）、作品発表・振り返りによる「フィードバック能力」（1）獲得の程度（20%）、授業参加度（15%）で評価する。		
課題に対するフィードバックの方法	制作した作品やプレゼンテーションについて、授業内で講評を行う。		
授業時間外学修	作品提出に向けた制作、発表に向けたシミュレーションを行う。（約9時間） 上記を除いた予習（各授業回約15分）、復習（各授業回約15分）、として、授業計画で示された内容を実施する。（約6時間）		
備 考	-		
連絡先（質問等）	hanada@uyo. ac. jp オフィスアワー 金曜日 12時25分～12時50分 その他、授業前後に、教室にて質問を受け付ける。		

授業科目	教育実習指導			授業形態	演習	単位数	1	単 位
担当者	実習委員会							
ナンバリング	ESP1B37	開講時期	1年次前期	授業時間数	30 時間	授業回数	15	回
必修・選択	幼免:必修			実務経験のある教員による授業科目			該当しない	
ディプロマ・ポリシーとの関連	(1)理論と技術を学び、専門職としての自覚および技術を持つ。							○
	(2)専門性を持った職業人として社会で活躍でき、自己の向上と自己実現および生涯学習の足がかりを作ることができる。							
カリキュラム・ポリシーとの関連	(1)基礎から応用へと発展するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する専門知識と技能を段階的に修得できる教育を実施する。							○
	(2)実習を通して理論と実践のつながりを理解するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する実践力を養う教育を実施する。							
	(3)学生と教員の対話を重視し、学生個人の特性や持ち味を生かした教育を実施する。							
授業の概要・方法	映像視聴や実習に関する演習、また、実際の事務作業を通して、教育実習をはじめ、実習全般に関する意義や心構えを実践的に学ぶ。実り多い実習となるように、実習開始に向けて、一つ一つ着実に確認したい。							
アクティブラーニングの実施	-			ICTを活用した授業の実施	-			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・教育実習をはじめ、各実習の意義や内容、目的、心構えについて説明できる。 ・実習を行う施設や実習の観察、実践、記録、評価の方法などについて具体的に説明できる。 ・実習の開始に向けて、個々の課題を明確にする。 ・「コミュニケーション能力」(3)「伝え合う手段を見つけることができる」を身につける。 							
授業計画	第1回	テーマ	実習の意義、実習の形態と方法					[渡辺 他]
		内容	実習の意義について学び、今後2年間の実習の形態と方法を理解する。なお、冒頭に各実習担当者の紹介を行う。					
		授業時間外学修	予習： シラバスを熟読する。 復習： 実習ノートP.3~6を復習し、疑問点をまとめる。					
	第2回	テーマ	社会福祉実習OR① 幼稚園とは；幼稚園教育要領					[渡辺 他]
		内容	本学の福祉コースの説明を踏まえ、社会福祉実習の形態と方法を理解する。続いて、幼稚園教育要領の要点を理解する。					
		授業時間外学修	予習： 実習ノートP.80(P.37~38)を熟読する。 復習： 上記の既習ページを復習し、疑問点をまとめる。					
	第3回	テーマ	性暴力防止について 幼稚園、保育所、認定こども園の違い					[渡辺]
		内容	幼稚園、保育所、認定こども園の概要を把握し、その違いを理解する。					
		授業時間外学修	予習： 実習ノートP.21(P.57)を熟読する。 復習： 上記の既習ページを復習し、疑問点をまとめる。					
	第4回	テーマ	教育実習IOR					[渡辺]
		内容	本学附属幼稚園4園の概要を把握する。そして、教育実習Iの1日について、映像視聴とワークを通して理解する。					
		授業時間外学修	予習： 実習ノートP.39を熟読する。 復習： 上記の既習ページを復習し、疑問点をまとめる。					

第5回	テーマ	幼稚園見学OR 〔渡辺〕
	内容	幼稚園教育要領の要点を理解する。そして、続く本学附属幼稚園見学についての準備物、留意事項について確認する。
	授業時間外 学修	予習： 実習ノートP.37～38 (P.40～41) を熟読する。 復習： 上記の既習ページを復習し、疑問点をまとめる。
第6回	テーマ	幼稚園見学 〔渡辺 他〕
	内容	クラスごとでグループに分かれ、本学附属幼稚園を訪問し、保育者の姿、関わり等について体験的に学ぶ。
	授業時間外 学修	予習： 配布資料を熟読する。 復習： 配布資料や準備物を実習ノートの指定された箇所に貼付し、復習する。
第7回	テーマ	幼稚園見学の振り返り・記録の書き方 〔大関〕
	内容	当日の写真を使用しながら、得られた学びを確認し、保育記録の形式に沿ってまとめる。
	授業時間外 学修	予習： 実習ノートP.20 (P.40～41) を熟読する。 復習： 上記の既習ページを復習し、疑問点をまとめる。
第8回	テーマ	保育者になること 〔外部講師・渡辺〕
	内容	教育活動、保育活動に関して、現職園長からその実際を学ぶ。
	授業時間外 学修	予習： 配布資料を熟読する。 復習： 配布資料を復習し、自身の保育者像をまとめる。
第9回	テーマ	保育技術について 〔外部講師・渡辺〕
	内容	パネルシアターやエプロンシアター等の保育教材に関して、実演を通してその技術を学ぶ。
	授業時間外 学修	予習： 実習ノートP.11～12 を熟読する。 復習： 上記の演習ページを復習し、整理する。
第10回	テーマ	実習生調書・実習のねらい① 教育実習Ⅱ（附属外）・教育実習Ⅲについて① 〔渡辺 他〕
	内容	本学の実習関係書類となる実習生調書・実習のねらいの書き方について学ぶ。後半、該当者は教育実習に関する依頼事務を行う。
	授業時間外 学修	予習： 実習ノートP.16～19 を熟読する。 復習： 上記の既習ページを復習し、疑問点をまとめる。
第11回	テーマ	保育実習保育所・保育実習Ⅱについて① 〔渡辺 他〕
	内容	保育所における実習の内容と依頼事務を行う。
	授業時間外 学修	予習： 実習ノートP.7、58～59 を熟読する。 復習： 上記の既習ページを復習し、疑問点をまとめる。
第12回	テーマ	実習生調書・実習のねらい② 教育実習Ⅱ（附属外）・教育実習Ⅲについて② 〔渡辺 他〕
	内容	実際に書き上げた実習生調書・実習のねらいを自己添削し、磨き上げる。後半、該当者は教育実習に関する依頼事務を行う。
	授業時間外 学修	予習： 実習ノートP.18～19 を書き上げる。 復習： 上記の演習ページを復習し、整理する。
第	テーマ	実習生調書・実習のねらい③ 〔渡辺〕

	13 回	内 容	自己添削を行った実習生調書・実習のねらいの清書に向けて最終確認を行う。
		授業時間外 学修	予習： 実習ノート P.16～19 を見直し、改めて内容を確認する。 復習： 実習生調書・実習のねらいの清書を仕上げる。
	14 回	テーマ	社会福祉実習OR② 教育実習Ⅱ（附属外）・教育実習Ⅲについて③ [渡辺 他]
		内 容	本学の福祉コースの特徴を理解し、社会福祉実習の形態と方法を確認する。後半、該当者は教育実習に関する依頼事務を行う。
		授業時間外 学修	予習： 実習ノート P.80 を熟読する。 復習： 上記の既習ページと配布資料を復習し、疑問点をまとめる。
	15 回	テーマ	総括 施設見学について 保育実習保育所・保育実習Ⅱについて② 教育実習Ⅱ（附属外）・教育実習Ⅲについて④ [渡辺 他]
		内 容	夏季休業後に実施される施設見学の準備物と留意点について学ぶ。なお、該当者は、保育所における実習、教育実習に関する依頼事務を行う。
		授業時間外 学修	予習： 実習ノート P.7、P.58～59、P.70～71 を熟読する。 復習： 既習内容を振り返り、疑問点を確認する。
	教科書・テキスト	実習ノート（羽陽学園短期大学実習委員会編） また、適宜、資料を配布する。	
	参考書・参考資料等	幼稚園教育要領（平成29年3月告示 文部科学省） 保育所保育指針（平成29年3月告示 厚生労働省） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省）	
	成績評価の方法・基準	レポート、提出物、実習ノートから、各領域理解の程度（60%）、「コミュニケーション能力」（3）獲得の程度（10%）、授業参加度（30%）で評価する。	
	課題に対する フィードバックの方法	レポート、提出物、実習ノートは確認・採点の後、講評を行う。	
授業時間外学修	予習（各授業回約30分）、復習（各授業回約30分）として、授業計画で示された内容を実施する。 課題が課された際は資料を見直し、内容を理解した上で、完遂する。（約15時間）		
備 考	実習に向けての講義・演習の他に、実習実施にあたっての依頼事務も行うので、皆出席を基本とする。万が一欠席した場合、当該授業の内容を早急に把握し、しかるべき手続きを行うこと。 なお、この授業は教育実習の必修5単位のうちの1単位になる。 実習指導は必要に応じて担当教員の研究室にて指導を行う。		
連絡先（質問等）	担当教員に関しては、実習指導の授業においてアナウンスがある。 担当教員のオフィスアワーに関しては、学生便覧「オフィスアワー」を確認すること。 その他、実習指導の授業前後に教室にて質問を受け付ける。		

授業科目	教育実習 I	授業形態	実習	単位数	1 単位		
担当者	実習委員会委員及び実習園教諭						
ナンバリング	ESP1B38	開講時期	1 年次後期	授業時間数	40 時間	授業回数	一 回
必修・選択	幼児:必修		実務経験のある教員による授業科目		該当する		
ディプロマ・ポリシーとの関連	(1)理論と技術を学び、専門職としての自覚および技術を持つ。				○		
	(2)専門性を持った職業人として社会で活躍でき、自己の向上と自己実現および生涯学習の足がかりを作ることができる。						
カリキュラム・ポリシーとの関連	(1)基礎から応用へと発展するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する専門知識と技能を段階的に修得できる教育を実施する。						
	(2)実習を通して理論と実践のつながりを理解するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する実践力を養う教育を実施する。				○		
	(3)学生と教員の対話を重視し、学生個人の特性や持ち味を生かした教育を実施する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼稚園の概要、幼稚園教諭の勤務内容を説明できる。 ・ 幼児の個性を知り、それに応じた関わりを試みる。 ・ 観察したことを丁寧に記録できる。 ・ ねらいをもって絵本・紙芝居を選択し、また、幼児の関心を惹く読み聞かせを試みる。 ・ 「自分で考え、実践できる能力」(1)「現状をしっかりとらえることができる」を身につける。 						
授業計画	<p>実習内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 日課、幼稚園教諭の職務を、観察を通して理解する。 ・ 幼児の成長や遊びの実態について、観察・参加を通して理解する。 ・ 実際に日誌を記入することにより、保育記録の取り方を身につける。 ・ 絵本や紙芝居の読み聞かせを実践する。 ・ 実習態度、保育実習能力の観点から自己評価を行い、自身の課題を明確化する。 						
	授業時間外学修	<p>予習： 実習の意義や目的、心構えについて十分に確認する。体調を含め、実習に向けた準備を整える。</p> <p>復習： 日誌を記入し、実習の振り返りを行う。</p>					
教科書・テキスト	<p>幼稚園教育要領（平成 29 年 3 月告示 文部科学省）</p> <p>幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成 29 年 3 月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省）</p> <p>実習ノート（羽陽学園短期大学実習委員会編）</p>						
参考書・参考資料等	事前指導、オリエンテーションにて適宜資料を配布する。						
成績評価の方法・基準	附属幼稚園の評価、学内で課したレポート、提出物、日誌等から、各領域理解の程度（60%）、「自分で考え、実践できる能力」(1) 獲得の程度（16%）、実習参加度（24%）で評価する。						
課題に対するフィードバックの方法	実習後に、園評価・各種提出物の得点は全てフィードバックし、講評を行う。						
授業時間外学修	<p>予習（実習実施各日約 30 分）、復習（実習実施各日約 1 時間）として、授業計画で示された内容を実施する。</p> <p>フィードバックされた結果を踏まえ、自己評価すると共に既習内容の理解を深める（約 1 時間）。</p>						
備考	<p>実務経験のある担当者による授業科目である。</p> <p>担当者は、実習園にて幼稚園教諭として業務に従事する実務経験をもつ。幼稚園教諭としての実務経験を活かして、幼稚園の日課、幼稚園教諭の職務、幼児の成長や遊びの実態、保育記録の取り方、幼児との関わり方について実例を示しながら指導を行う。</p>						

	実習実施にあたっては、「教育実習指導」、「幼児教育者論」の単位を修得していなければならない。
連絡先（質問等）	担当教員に関しては、実習指導の授業においてアナウンスがある。 担当教員のオフィスアワーに関しては、学生便覧「オフィスアワー」を確認すること。 その他、実習指導の授業前後に教室にて質問を受け付ける。

授業科目	教育実習Ⅱ	授業形態	実習	単位数	3 単位		
担当者	実習委員会委員及び実習園教諭						
ナンバリング	ESP2B39	開講時期	2 年次後期	授業時間数	120 時間	授業回数	一 回
必修・選択	幼免:必修		実務経験のある教員による授業科目		該当する		
ディプロマ・ポリシーとの関連	(1)理論と技術を学び、専門職としての自覚および技術を持つ。						
	(2)専門性を持った職業人として社会で活躍でき、自己の向上と自己実現および生涯学習の足がかりを作ることができる。					○	
カリキュラム・ポリシーとの関連	(1)基礎から応用へと発展するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する専門知識と技能を段階的に修得できる教育を実施する。						
	(2)実習を通して理論と実践のつながりを理解するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する実践力を養う教育を実施する。					○	
	(3)学生と教員の対話を重視し、学生個人の特性や持ち味を生かした教育を実施する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児の発達や個性を把握した上で、指導計画（日案）作成、保育実践、記録、評価、改善を適切に行うことができる。 ・ 絵画、音楽、運動などの保育技能を高め、実践に活かすことができる。 ・ 社会人としての責任、幼稚園教諭の職務の多様性とその重要性について認識し、説明ができる。 ・ 「自分で考え、実践できる能力」(4)「実践における様々な問題を解決することができる」を身につける。 						
授業計画	<p>実習内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児の成長や遊びの実施について、観察・参加を通して理解する。 ・ 大きな行事の運営を観察・参加することにより、企画・運営の方法を学ぶ。 ・ 日誌の記入を通して、日々の自己の反省をし、課題を見つける。 ・ 朝の会や帰りの会などの部分実習を複数回実施する。 ・ 担当する幼児に合わせた日案を立案した上で、責任実習を1回以上実施する。 ・ 責任実習について自己評価を行い、自分の課題や改善点を明確化し、次の実践に活かす。 						
教科書・テキスト	<p>幼稚園教育要領（平成29年3月告示 文部科学省）</p> <p>幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省）</p> <p>実習ノート（羽陽学園短期大学実習委員会編）</p>						
参考書・参考資料等	適宜資料を配布する。						
成績評価の方法・基準	幼稚園からの評価と学内における提出物により、実習参加度（30%）、専門的技能の獲得の程度（20%）、専門的な考え方の獲得程度（20%）、「自分で考え、実践できる能力」(4)獲得の程度（30%）で評価する。						
課題に対するフィードバックの方法	<p>実施した責任実習について実習園で反省会を行う。</p> <p>日誌については、実習園の担当教諭が所見を記入して学生に返却する。</p> <p>実習後に、園評価・各種提出物の得点は全てフィードバックし、講評を行う。</p>						
授業時間外学修	<p>予習：部分実習、責任実習等の準備（日案の作成も含む）をする。（約10時間）</p> <p>復習：一日の実習を振り返り、実習日誌に記録や反省等をまとめて記入する。（実習実施各日約90分）</p> <p>フィードバックされた結果を踏まえ、自己評価すると共に既習内容の理解を深める。（約1時間）</p>						
備考	<p>実務経験のある担当者による授業科目である。</p> <p>担当者は、実習園にて幼稚園教諭として業務に従事する実務経験を持つ。幼稚園教諭としての実務経験を活かして、幼稚園の日課、幼稚園教諭の職務、幼児の成長や遊びの実態、保育記録の取り方、幼児との関わり方について実例を示しながら指導を行う。</p>						

	実習実施にあたっては、「教育実習Ⅰ」、「保育内容指導法」の単位を修得していなければならない。
連絡先（質問等）	担当教員に関しては、実習指導の授業においてアナウンスがある。 担当教員のオフィスアワーに関しては、学生便覧「オフィスアワー」を確認すること。 その他、実習指導の授業前後に教室にて質問を受け付ける。

授業科目	教育実習Ⅲ	授業形態	実習	単位数	2 単位
担当者	実習委員会委員及び実習園教諭				
ナンバリング	ESP2G40	開講時期	2 年次後期	授業時間数	80 時間 授業回数 一 回
必修・選択	幼児:選択	実務経験のある教員による授業科目			該当する
ディプロマ・ポリシーとの関連	(1)理論と技術を学び、専門職としての自覚および技術を持つ。				○
	(2)専門性を持った職業人として社会で活躍でき、自己の向上と自己実現および生涯学習の足がかりを作ることができる。				
カリキュラム・ポリシーとの関連	(1)基礎から応用へと発展するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する専門知識と技能を段階的に修得できる教育を実施する。				○
	(2)実習を通して理論と実践のつながりを理解するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する実践力を養う教育を実施する。				
	(3)学生と教員の対話を重視し、学生個人の特性や持ち味を生かした教育を実施する。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児の発達、個性を把握した上で、指導計画作成、保育実践、記録、評価、改善を適切に行うことができる。 ・ 幼児の個性を把握し、一人ひとりに即した対応を考え、実践することができる。 ・ 絵画、音楽、運動等の保育技能及び教材の開発・研究能力を高め、実践に活かすことができる。 ・ 社会人としての責任を認識するとともに、幼稚園教諭の職務内容とその意義についての見識をさらに深める。 ・ 「フィードバック能力」(3)「実践中に瞬時に判断し、修正や改善をすることができる」を育てる。 				
授業計画	<p>実習内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ クラス運営や行事に参加することで、幼稚園教諭に求められる資質・能力・技術、職務の多様性や重要性を理解する。 ・ 園児との触れ合いを通して幼児一人一人の個性を理解し、適切な対応ができる。 ・ 幼児の実情の把握や教材研究を行い、指導計画を作成し、部分実習や全日実習を実践することで、計画と実践の関係について学ぶ。 ・ 実践についての記録を踏まえて自己評価を行い、次の課題と目指す幼児教育者像を明確にする。 ・ 子育て支援についての理解を深め、幼稚園の役割を学ぶ。 				
教科書・テキスト	<p>幼稚園教育要領（平成 29 年 3 月告示 文部科学省）</p> <p>幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成 29 年 3 月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省）</p> <p>実習ノート（羽陽学園短期大学実習委員会編）</p>				
参考書・参考資料等	適宜資料を配付する。				
成績評価の方法・基準	幼稚園からの評価及び学内で課すレポート・実習日誌内容より、実習の参加度（20%）、専門的な考え方や知識及び実践力の獲得の程度（60%）、「フィードバック能力」(3) 獲得の程度（20%）で評価する。				
課題に対するフィードバックの方法	<p>実施した責任実習については、実習園で反省会を行う。</p> <p>日誌については、実習園の指導担当教諭が所見を記入して学生に返却する。</p> <p>実習後に、園評価・各種提出物の得点は全てフィードバックし、講評を行う。</p>				
授業時間外学修	<p>予習：部分実習、責任実習等の準備（日案の作成や教材研究も含む）を行う。（10 時間）</p> <p>復習：1 日の実習を振り返り、実習日誌に活動記録や反省・課題等について記入する。（実習実施各日約 90 分時間）</p> <p>フィードバックされた結果を踏まえ、自己評価すると共に既習内容の理解を深める。（約 1 時間）。</p>				
備考	<p>実務経験のある担当者による授業科目である。</p> <p>担当者は、実習園にて幼稚園教諭として業務に従事する実務経験を持つ。幼稚園教諭としての実務経験</p>				

	<p>を活かして、幼稚園の日課、幼稚園教諭の職務、幼児の成長や遊びの実態、保育記録の取り方、幼児との関わり方について実例を示しながら指導を行う。</p> <p>実習実施にあたっては、「教育実習Ⅰ」、「保育内容指導法」の単位を修得していなければならない。</p>
連絡先（質問等）	<p>担当教員に関しては、実習指導の授業においてアナウンスがある。</p> <p>担当教員のオフィスアワーに関しては、学生便覧「オフィスアワー」を確認すること。</p> <p>その他、実習指導の授業前後に教室にて質問を受け付ける。</p>